

渋川県産材センター～国産材安定供給のために～

母船式木流システムのノウハウを活かし、全量出材構想とも言われる画期的かつ全国初の仕組みを実践する渋川県産材センターの取り組みは、地域の森林組合の活性化にもつながると評価され、様々なところで取り上げていただいております（※）。

※参考資料

H22.1 林政ニュース第381号

H24.1 木材情報

H24 森林・林業白書

H25.8 認定森林施業プランナー活動事例集Vol.1

H26.1 ForestInNagano57号

R2 森林・林業白書

森林・林業・木材産業分野の政策に広く国民の声を反映させるため林野庁が設置する「林政審議会」では、委員による現地視察が平成27年11月9日に行われた（右記）ほか、平成27年11月10日開催時の資料1-5「国産材の安定供給について」において、下記のとおり、国産材安定供給の取組事例として紹介されています。

③ 渋川県産材センター（渋川市）

- 群馬県森林組合連合会が設置した製材施設。（市場機能を持たない原木の集荷、選別、簡易加工施設）
- 切り捨て間伐から利用間伐へ転換するため、出口対策として全量買い取りを開始。
- 3mでA～C材を全量定額買い取り。受け入れた材は選別機により仕分け、A材は柱材用、B材は集成材用、C材は製紙用チップに加工し、提携工場等へ出荷。（平成26年度原木入荷3.5万m³）
- A材、B材は協定取引により全量販売、C材は出荷量の1/2を占め、未利用資源の活用が促進されている。



安定供給の取組事例

事例5 製材工場によるA～C材の全量・定額買い取り

- 製材工場が、A、B、C材それぞれを全量・定額で買い取り。
- 3m無選別材の受け入れに特化して、造材作業を単純化させ、生産効率の向上により間伐施業の促進を図る。
- A材及びB材は、それぞれ柱用、ラミナ用に1次加工して関連工場へ販売、C材をチップとして販売。



3mに造材された丸太は、選別機によりA～C材に選別。山土場での選別作業が省力化され、生産効率が向上。



C材は、製紙用チップに加工。以前は搬出されなかった材も搬出されるようになり、森林資源を有効活用。

